
聖龍降臨譚

九十九 妖一

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

聖龍降臨譚

【Nコード】

N8836X

【作者名】

九十九 妖一

【あらすじ】

美しい主従愛（笑）で、世界を救うかもしれないお話。

主人公最強系（ご都合主義も過分に含みます）がご無理な方は、backをお勧めします。 b

ブログ（前書き）

初めての投稿なので、緊張しました。><

誤字・脱字がありましたら、遠慮なくご指摘ください。

アドバイス・感想等も受け付けておりますので、よろしくお願
いします。>m(一一)m<

プロローグ

闇と光は幾度も衝突し、そして闇は消滅した。

しかし、光もその輝きをどんどん失っていった。

すると光の中から人のシルエットが浮かんできた。

そして、そのシルエットの口が動いた。

それを見るのは……………

光は完璧にその輝きを失うと、そのまま宙に吸い込まれるように消えていった。

あとには何も残らず、ただ物悲しい風だけが吹いていた。

いや、そこには一人の男がいた。静かに涙を流しながら――

「***様・・・、あなたがいない世界は虚しいですね。」

しかし、その台詞を言った男の瞳には深く何かを決意するような光が浮かんでいた。

プロローグ（後書き）

・・・途中から自分で書いてて、わからなくなりました。

「意味深過ぎるだろ！」とRさんに怒られました、スイマセン><

プロローグはどうでしたでしょうか？

次話の展開が、全然分らないですよねゝ^^;

気になる方は、是非次話も見てくださいね！

では、失礼しました>m(_____)m<

第一話　従者が変態？！

あの方の目が開いた。

そこにはあの”トキ”と変わらない紺碧の瞳が在った。

・・・——ああ、神よ！この命よりもすばらしい奇跡に感謝します！……！

私が小声で信じもしない神に感謝をささげていると、あの方は私を困った顔で見ている。

ずっとぶつぶつと言っていたので、ちょっと頭の変な人と思われるたようです。

まあ、あの方が私のことをどう思おうと「私のことを考えている」というだけで満足です。

しかし今後のあなたと私の愛を育てていく為にも誤解は解いておいた方が得策でしょう。

私はそう思い口を開いた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8836x/>

聖龍降臨譚

2011年11月17日17時41分発行